

④「大阪府発！コロナ禍における子ども支援・学校支援ネットワークの充実」
 大阪府教育庁 市町村教育室 小中学校課 生徒指導グループ
 総括主任指導主事 中野 悟志
 指導主事 大山 達

○緊急支援チームを構成する専門家の役割

- ・スクールロイヤー…法的根拠に基づいた見立て・助言を行う
- ・スクールカウンセラー…心理的な見立てをもとに、児童生徒や保護者、教員に対する心理的なケアを行う
- ・スクールソーシャルワーカー…事案を取り巻く環境要因への見立てをもとに福祉的な視点による学校への助言、必要に応じて、関係機関との調整による家庭支援等を行う
- ・緊急支援(学校)アドバイザー…校長 OB で構成、生徒指導体制や児童生徒、家庭との関係性を見立てながら、組織的な対応や保護者対応への助言を行う

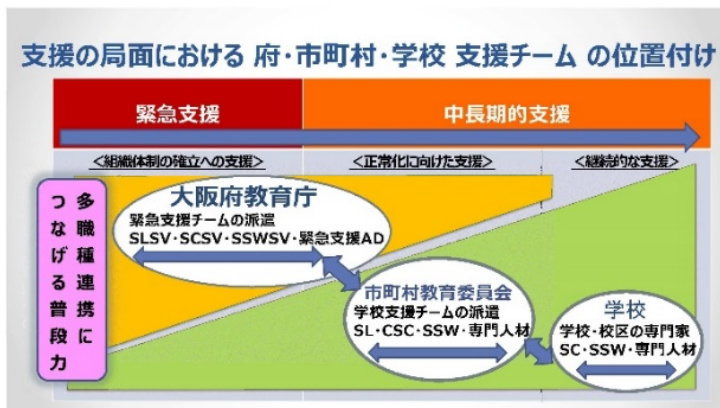
○専門家活用の事例

- ・スクールロイヤー…過度の要求を求める保護者に関する見立て
 文書回答の要否判断と文書のリーガルチェック
- ・スクールカウンセラー…被害・加害生徒の心理要因の見立てと心理的ケア
- ・スクールソーシャルワーカー…生徒間や保護者間の関係に関する見立て
 家庭環境等改善のため機関連携
- ・緊急支援アドバイザー…教職員や管理職の対応に関する見立て
 学校の組織対応に関する助言

○コロナ禍による学校と子どもを取り巻く環境の変化と対応

いじめの重大事態、家庭環境の急激な変化に伴う虐待・ヤングケアラー、保護者からの過度な要求、ストレスの高まり等による子どもの自傷行為等、コロナ禍において、問題行動等の背景の広がりにより深刻化しているため、多様な観点によるアセスメントの必要性すなわち正確な見立てがより求められ、多職種連携は欠かせないといえる。

○支援の局面における(府・市町村・学校)支援チームの位置づけ



○多職種連携につなげるケース上のフェーズとその活用

- ・ 学校がケースをつかむ
学校がケースを「つかむ」「漏らさない」→スクリーニングの活用
全児童生徒を対象に共通の基準でピックアップし適切な支援につなげる
- ・ 市町村教委がケースを収集する・振り分ける
ケースを「収集する」「振り分ける」→仕組みをつくる
欠席状況調査、いじめ等事案報告書や生徒指導担当者会、SC・SSW 連絡会をケース
把握に活かす、不登校対応チャートの作成・活用等も有効

○支援ネットワークにおいて大切にすべきこと

- ・ 学校の体制づくり ①校内の情報収集体制 ②専門家を入れた組織対応
③市町村教委との情報共有
- ・ 市町村教委 ①SC・SSWのSVやチーフとの相談体制
② ①を活用しケースのリスク分析・整理